

ブルゴーニュ大学への協定留学 月例報告書 (9月分)

留学先大学：ブルゴーニュ大学

氏名：奥山海

はじめに

9月24日17時ごろ、ご協力いただいた先生、教務学生室の方々、親族一同に感謝の念を抱きながら日本を出発しました。フランスには、9月25日、朝8時ごろ到着しました。空港から、大学のあるディジョンまで、約3時間かかり、国際学生寮にたどり着いたときには、くたくたでした。その日は17時に眠り、時差ボケの影響もあったので、翌日の7時ごろまで寝ていました。



「ディジョン駅」

フランスのシャルル・ド・ゴール空港から、パリ中心部へ行くには、時間がかかります。さらにパリは、駅が離れた場所にいくつもあり、日本の駅の様子に、一箇所に集中していません。そのため、レンヌに行きたい人はモンパルナス駅に、リヨンに行きたい人はリヨン駅になどと、日本の交通システムに慣れていた私には、神経をすり減らす思いで、ディジョンに到着したのです。

学校について

学校が始まって最初の1週間、授業はなく、クラスの振り分けテストとポーヌへの遠足、ディジョンの散策などがありました。ポーヌやディジョンは、大学のフランス語の授業で知っていたのですが、実際にその土地を歩いてみると、雰囲気や匂いなど、写真ではわからなかったことが感じられ、とても感動しました。



「オテルデュー」



「最後の審判」

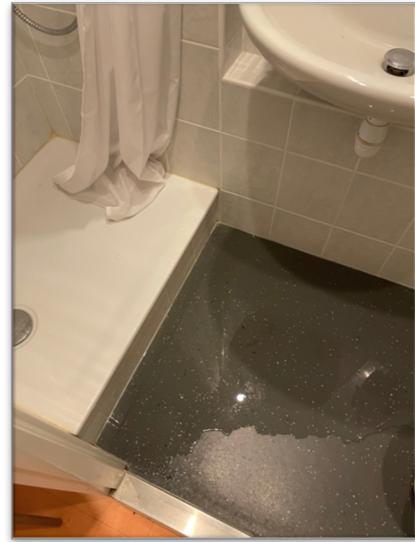
ポーヌでは、

「オテルデュー」という中世に、貧しい人々のために建てられた無料の医療施設を訪れました。中には、ロジェ・ウェイデン作の「最後の審判」が飾られていました。留学前、大学の授業でルネサンス絵画、とりわけ私は「最後の審判」を学んでいたため、直接それを鑑賞することができて嬉しかったのです。

またポーヌでは、ブルゴーニュの郷土料理であるエスカルゴと赤ワイン煮込みの牛肉を食べました。どちらも美味しかったのですが、初めて殻付きのエスカルゴを食べたので、改めてエスカルゴは「カタツムリ」なんだと認識させられました。

今月の失敗 - シャワー編

私が現在生活している国際学生寮には、トイレとシャワーが同じ空間にあり、その間には一枚の布で仕切られています。いわゆる、ユニットバスです。シャワーとトイレを隔てている布をしっかりと仕切らないと、トイレが水浸しになってしまうため、シャワーを浴びる時には注意が必要です。最初、そんなことはつゆ知らず、私はシャワーを浴びてしまいました。もちろん、仕切りはしていましたし、水がトイレに流れないように注意していたつもりでした。しかし、シャワーを浴び終わり、仕切りを取ってみると、驚くことに辺り一面水浸しになっていました。写真は、その時のものです。この時から、どうしたら水がトイレに流れないか、模索する日々が続いています。



「水浸しのシャワー室」

おわりに

言葉も満足に伝わらない土地で、初めて体験する文化に触れるということ、それはどうしても怖いという気持ちが芽生えてしまいます。しかし恐怖心を抱くのは、ただ単純に「知らない」からであって、「知っていく」ことによりそのような気持ちは払拭されていくのだろうと確信しています。『失敗してもいいから、初めの恐怖心を乗り越えて「知っていく」こと』、このことを私の、留学におけるミッションとして銘記しておこうと思います。